



## 平成26年産 米穀の買入れ価格決定

今年は、春からカメムシの発生が多く、8月には例年にない日照不足となり、いもち病や紋枯病などの病気が多く、生育の遅延も見られました。また、適期防除が行えなかったためか、穂いもちによる白穂も多く、一部では秋ウンカの被害も発生しています。

米生産に非常に厳しい年になったにもかかわらず、全国農業協同組合連合会の平成26年産米の概算金は、主食用うるち米コシヒカリ1等4,700円/30kg、ヒノヒカリ1等4,300円/30kgに決定し、25年産米より1,100円~1,300円の大幅な値下げとなっています。

この様な情勢ではありますが、「管内で収穫された米穀は管内で消費」することを基本として下記のとおり安芸農業協同組合独自の高価買入れ価格を決定いたしました。出荷を希望される方は、お近くの支店、購買部または、営農指導センターへお申し出ください。

**是非、安芸農協へ全量出荷していただきますようお願い申し上げます。**

平成26年産米穀買入れ価格		円/30kg税込み		
銘柄	1等	2等	3等	
コシヒカリ	6,100	5,400	5,000	
ヒノヒカリ	5,900	5,300	5,000	
あきろまん	5,700	5,200	4,900	
上記以外の銘柄	5,200	4,800	4,100	
こだわり米ヒノヒカリ	6,300	5,900	5,300	

※上記規格米については、7日以内に精算し、指定口座に振り込みます。

※くず米については、販売した時点で別途価格を設定します。

※くず米のみの出荷も受け付けいたします。

※25年産うるち玄米及びもち玄米については集荷をいたしませんので予めご了承ください。

## 米集荷・検査日程決まる

9月25日から米集荷・検査が始まりました。今まで出荷したことがない方や毎年古米が余りなかなか新米が食べられない方も是非とも出荷してください。出荷申込書と栽培履歴を記入していただければ結構です。今後の日程や詳しいことは、最寄りの支店・購買センターまたは営農指導センターへお気軽にお問い合わせください。

## 不用農薬適正処理を行います！

10月20日まで受付しています。お問い合わせは営農指導センターまで(082-855-6176)

## 水田の土壌診断について

J A 安芸では品質の良い米作りと適正な施肥管理のため、水田の土壌診断を実施いたします。(分析はJ A 西日本肥料研究所で行います。)診断した土壌は、個々に土壌診断処方箋を作成して申し込み者へ送付いたします。ぜひこの機会に土壌診断を受けられることをお勧めします。申込は下記の通り行いますのでよろしくお願いいたします。

— 記 —

- ① 診断項目(水稲) PH・有効態りん酸・遊離酸化鉄・有効けい酸・腐植
- ② 土壌提出先 J A 安芸 各支店購買窓口及び熊野購買センター
- ③ 提出期限 平成26年11月12日(水)
- ④ 検査の費用 無料(住所、氏名をTACシステムに登録させていただきます。)
- ⑤ 土壌サンプルの取り方 別紙添付しておりますので正しく取ってください。  
注) 乾燥して粉砕してふるいをかけた物でないとお引き受けできません。土はビニールに入れて氏名、住所、電話番号、土の区分のわかるものを付けてください。
- ⑥ 土壌診断結果 個別にお知らせいたします。
- ⑦ 土壌診断を行うメリット
  - 圃場の土壌状態がわかる。
  - 土壌診断結果をもとに施肥を行い、土壌中の肥料バランスを整えることができる。
  - 土壌診断を行い適正・過剰な成分があった場合は、減肥できる為コストの低減ができる。

## 平成26年度農業祭開催予定日のご案内

夏の長雨から一転し、好天が続く夏秋野菜の栽培が順調に経緯しているのではないのでしょうか?害虫による被害は例年に比べ少ない目になっていますが、9月の好天により10月以降は被害の拡大が予想されるため、初期防除を徹底してください。

今年も各地区で地域農業振興及び地域住民(消費者)の方に農業理解を深めていただくことを目的に開催されますので、多数出品をお願いいたします。

- ★かいた農業祭 11月22日(土)
- ★阿戸町農業祭 11月16日(日)
- ★熊野町農業祭 11月30日(日)
- ★瀬野川農業祭 11月30日(日)
- ★坂町農産物品評会 12月7日(日)

## ぶどう立毛品評会について

瀬野川農事研究会 ぶとう部会が9月5日に立毛品評会を行いました。当日の審査員として広島市より2名、J A 安芸より2名が参加し午前は圃場の状態、生育状況など審査しました。今年は8月の長雨や日照不足により生育の遅延や、裂果やべと病による被害が多く見られ、一部で早期落葉している圃場もありました。



また、カリ欠乏の症状も多くみられ栽培に苦労された年となっていました。圃場によっては雨対策としてマルチを張り水の侵入対策などを行い、良質な物を作られる工夫をされていました。午後からは房じまり、着色、着粒数など適正に整理されているか審査を行いました。例年であれば9月上中旬に出荷のピークですが、今年は中旬頃に出荷のピークとなりました。